

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業のうち短期課題解決型研究

令和2年度に開始した試験研究課題の中間評価結果及び評価結果に基づく対応措置

課題番号	試験研究課題名及び実施研究機関	実施期間	研究概要	評価所見	総括評価	評価結果に基づく対応措置（研究計画の変更、中止等）
20330964	カキ中のノロウイルス低減対策に関する研究 【実施研究機関】 カキ中のノロウイルス低減対策に関する研究グループ ・(国研)水産研究・教育機構 ・国立医薬品食品衛生研究所 ・宮城県水産技術総合センター	R2～R4	<p>(背景・目的)</p> <p>ノロウイルスは、ヒトに感染し重度の腹痛、嘔吐、下痢を引き起こす食中毒原因ウイルスである。ノロウイルスを原因とする食中毒の患者数は、国内で発生した全食中毒事例のうち最多であり、そのうちの1割以上がカキ中のノロウイルスを原因とした食中毒であると推察されている。また、カキはノロウイルスに汚染されていると消費者に広く知られていることにより、消費の低迷が懸念されている。</p> <p>カキなどの二枚貝は、採餌の際に餌と一緒に海水中のノロウイルスを取り込んでおり、このことから一定の割合でノロウイルスに汚染されている。カキ生産者は、出荷前のカキを清浄海水等で畜養して、組織内に蓄積された大腸菌などの病原性微生物を排出させており、近年ではこの浄化処理によるノロウイルスの浄化も試みられている。しかし、浄化処理に関する温度や畜養条件は生産者がこれまでの経験から設定しており、生産者ごとに異なっている。さらに、浄化処理が実際にノロウイルスの低減につながっているか検証した試験はほとんど行われておらず、科学的に信頼できるデータの蓄積が必要になっている。</p> <p>このため、本研究では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトノロウイルス汚染カキ試料作成方法の確立 2. カキおよび海水中の病原性微生物低減法の検討 3. ヒトノロウイルス汚染カキの作成及び病原性微生物浄化法の実証化 <p>により、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄化効果の検討に使用するノロウイルス汚染カキ試料の作成方法を手順書にまとめる ・カキ中の病原性微生物が効率よく低減する浄化法を提案することを目標とする。 <p>(研究項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ヒトノロウイルス汚染カキ試料作成方法の確立 ②カキおよび海水中の病原性微生物低減法の検討 ③ヒトノロウイルス汚染カキの作成及び病原性微生物浄化法の実証化 	<p>・課題の一部に遅れはあるものの、おおむね研究実施計画どおり進捗している。本研究で得られた成果及び今後得られることが期待される成果は、先導性があり、また、リスク管理に活用可能なものであると期待される。本研究は、安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業の趣旨に沿ったものであると判断できる。</p> <p>・ヒトノロウイルス汚染カキ試料作製方法の確立は、ほぼ達成できており、今後も計画通りに当該研究課題を遂行することで、地方水産研究所等での活用に資する成果が見込まれる。</p> <p>・中腸腺盲嚢部細胞内にノロウイルスが取込まれたかの確証を得るためにも、中腸腺内に蓄積するウイルス量と実験水槽内の海水中に残るウイルス量との比較検証を行うことが望ましい。</p> <p>・自然界ではカキはプランクトンと一緒にウイルスを取込んでいるとすれば、ウイルスのみを接種した場合と、餌となるプランクトンを一緒に取込んだ場合とでカキ生体内でのノロウイルスの挙動が一致しているかを確認する必要があると考えられる。</p>	B	引き続き運営チームと連携し、継続して研究を実施する。特に海水中のノロウイルスを含む病原性微生物低減法の検討について研究を推進する。

<総括評価の説明>

- A: 研究実施計画どおり、又は計画以上に進捗しており、引き続き運営チームと連携し、継続して研究を実施することが妥当である。
- B: 研究の進捗は遅れているが、一層の努力により研究を実施すれば、研究目標の達成は可能と見込まれる。
- C: 研究の進捗が遅れており、運営チームと協議し、研究実施計画を見直した上で研究を実施することが妥当である。
- D: 研究計画を見直しても目標を達成できる見込みが低いことから、研究課題を中止することが妥当である。